

事業評価シート（平成26年度分）

1. 事業の位置付け

事務事業名	余熱利用施設整備事業		
事業担当	環境部 環境施設課		
事業種類	ハード	ソフト	
総合計画の位置付け	'03	基本目標3 人と自然が調和した、やすらぎのあるまち	
	'03	循環型社会 循環型社会をめざして環境負荷の少ない暮らし方を定着させる	
	'02	2 ごみの排出を抑制し、資源化を進める	
根拠法令等			
対象・受益者	市民他	事業期間	
委託・協働	【委託: 3セク・財団 企業 NPO その他】【協働: 】		
目的・目標		事業の概要	
環境事業センターの円滑な運用が図られています。		環境事業センターの円滑な運用を図るため、余熱利用施設の整備を進めます。	

2. 事業の検証

活動指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標					
活動指標	指標名				単位	
	説明・算定式					
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	実績					
成果指標	指標名	余熱利用施設整備進捗率			単位	%
	説明・算定式	平成26年度を100%とした事業進捗率。H22:調査、H23・H24:検討、H25・H26:設計				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標	20	45	100		
	実績	16	41	82		
成果指標	指標名	余熱利用施設整備進捗率(平成27年度から)			単位	%
	説明・算定式	平成28年度を100%とした事業進捗率。H25～H27:設計、H27・H28:建設				
		平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	
	目標				28	
	実績					
進捗状況	: 若干遅れている					
	遅れている理由	基本設計の取りまとめ等に時間を要したため、業務委託期間を延長しました。				
平成26年度の主な取組と成果						
前年度から引き続き基本設計を進めて10月に業務が完了しました。なお、基本設計の中で行った施設レイアウトの検討は、大神地区環境推進協議会で意見を聞きながら作業を進めました。基本設計完了後は、引き続き実施設計に着手しました。						
平成26年度の検証結果	B : おおむね成果があがった					

事業分析	項目	分析の視点	左記の視点に関する分析・課題の抽出	総合評価
	必要性	市民ニーズ 事業目的の達成状況 市の関与の必要性 その他	地域の活性化や少子高齢化等による市民の健康増進施設のニーズは高いです。	高低
	有効性	上位施策への貢献 市民満足度を高める方策 継続による成果向上の可能性 その他	立地の特性を生かした施設整備に努め、満足度を高めま す。将来的に近隣市町との交流増加が見込まれる地域に あることから有効性は高いです。	高低
	妥当性	事業の目的、対象、内容 受益者負担、補助額 業務の執行体制(人員配置、業務分担) その他	余熱を有効利用する健康増進施設の設置は、市民だけ ではなく、近隣の事業所勤労者やスポーツ施設利用者の利用 も見込まれます。	高中 低
	効率性	業務プロセス改善による効率化の方策 コスト削減の可能性 事業手法(民活の余地、事業形態の検討) その他	余熱を利用するため運営コストが削減されます。	高中 低
今後に向けた課題の分析 平成28年度中に供用開始をするためには、整備スケジュールの進捗管理をしっかりとする必要があります。				

3. 年度別事業内容・決算額

(単位:千円)

		平成24年度 決算額	平成25年度 決算額	平成26年度 決算額	平成27年度 予算額
事業内容		余熱利用施設基本設計 の検討	余熱利用施設基本設計 、整備手法検討	余熱利用施設実施設計	余熱利用施設実施設計 ・建設
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	起債	0	0	0	276,800
	その他 特財	0	0	5,030	0
	一般財源	0	12,270	15,520	112,385
事業費 (A)		0	12,270	20,550	389,185
執行率 (%)		-	70.92	77.75	

4. 今後の事業展開(担当課としての提案)

平成28年度の取組方針 平成28年度中の供用開始を目標に整備を進めます。
課長コメント 地元住民との連携に配慮し、供用開始に向けて、着実に整備を進めていきます。